

第1学年の取組

(1) 実践内容 「みんな、なかよし」

① はじめに

1年生では、人のかかわり合いを大切にし、思いを高めるために言語活動の基礎を養うことが大切である。そのため、国語科や学級活動を中心とした学習の中で言語活動の場を多く設けたり、話形や話し合いのルールを取り入れたりすることとした。また、自分も言いたいことを伝えることができ、相手も気持ちよく聞くことができるコミュニケーションの仕方を学び、互いに相手の気持ちを思いやることのできる力を育てるためにアサーション学習を取り入れた。

② 「ひと・もの・しぜんを大切にしたESD活動

～言語活動を重視し、自分の思いを素直に表現できる子を育てる～

ア 学級活動「なかよし」(5月)

身近な体験を元にアサーティブな表現を学習した。(③-I)

イ 道徳「わたしのあさがお」(6月)

生活科と道徳の連携を図り、「わたしのあさがお」を題材とした。(③-II)

ウ 生活科「笑顔のあさがお宅配便」(7月)

5月に種をまき育ててきたあさがおを、駅、甚目寺観音、商工会へ届けた。地域の方に見ていただいたり、家族から「きれいだね」と言われたりして満足そうだった。

エ 国語科「ひらがなあつまれ」(9月)

表に隠れている言葉を探す活動を行った。互いに見つけた言葉を伝え合うことで、いろいろな言葉を知ることができた。

オ 学級活動「命の授業～うしのいのち～」(10月)

乳牛を育てている方から、牛乳ができるまでの話や牛の出産の話をしていただいた。牛の出産から終末の様子を知ることによって命の尊さに触れることができた。

カ 道徳「いただきまーす！」(10月)

「命の授業～うしのいのち～」の出前授業を受け、道徳を行った。食べ物になった生き物の気持ちを考えさせることで、命について考えを深めさせた。

キ 生活科「たのしもうあき」(11月)

幼保小連携の活動で、秋の木の実や落ち葉を使ったお店屋さんを児童が開き、園児達を招待した。また、グループで意見を出し合い、協力する姿が見られた。

ク 国語科「ともだちにきいてみよう」(12月)

友達にインタビューをしたことを発表する活動を行った。5W1Hを基本としたメモを使うことで、必要な情報を集めたり、大事なことを落とさずにきいたりすることができた。

ケ 生活科「むかしのあそびをたのしもう」(1月)

地域のお年寄りから、缶ぽっくり、お手玉、竹とんぼなどの昔遊びを教えていただく予定。

③-I ESD学級活動 主題「なかよし」

入学して1ヵ月、児童も少しずつ学校生活になれてきた。しかし、遊んでいる様子を見ると、友達をうまく誘って遊べなかったり、けんかになったりする場面があった。そこで自分も言いたいことを伝えることができ、相手も気持ちよく聞くことができるコミュニケーションの仕方を学び、互いに相手の気持ちを思いやることのできる友達関係を育む授業を計画した。

ア 導入の様子

本時では、自分も相手も大切にするアサーティブな表現ができるように、アサーティブな表現とはどういうものなのか学び、よさを知ることからねらいとした。児童はこれまで生活の中の様々な場面で誘われたり、断ったり、譲ったりという経験がそれぞれあるだろうと考え、導入では「ブランコで遊んだ経験」を取り上げた。「まだブランコで遊びたいのに友達に『ブランコ代わってほしい』と言われました。そのときあなたはなんと言いますか？」とブランコで遊んでいる場面を設定し、自分だったらなんと答えるかを考えさせた。「うん」という一言にしても、どのような表情で言うかによって受け取る側の気持ちが異なることから、発表の際は表情を表すマーク「笑顔」「怒り」「泣き顔」を活用するように声をかけた。

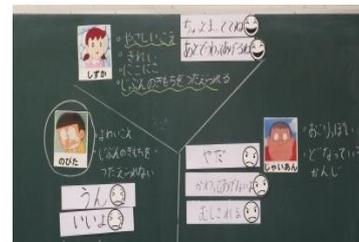


【場面設定の説明】

イ 展開の様子

展開の場面では、自分だったらどのように答えるかという問いに、多くの児童が手を挙げて意欲的に発表しようとしていた。「ちょっとまってね（笑顔マーク）」「やだ（怒りマーク）」「いいよ（泣き顔マーク）」、さらにすでに「僕ももうちょっと乗りたいから、その後貸してあげるね（笑顔マーク）」という自分も相手も大切に作るアサーティブな表現で答える児童もいた。児童の意見は短冊に書き、クラス全体で共有できるようにした。児童にとってイメージしやすいキャラクターを使って出された意見を3つに分類し、「ジャイアン」「しずか」「のびた」の話し方の特徴を確認した。児童からは、「のびたはいつもドラえもんにかかっている」「よわい」という声や「ジャイアンは意地悪」「しずかちゃんは優しい」などの声があった。児童がよく知るアニメのキャラクターだったので、それぞれのキャラクターの特徴を声に出し、興味をもった児童が多かった。

分類の際にはYチャートを用いて言い方の特徴ごとに分け、視覚的に違いがわかりやすいよう工夫した。児童は言葉の特徴で分類したり、マークを見て分類したりしていた。



【Yチャートを用いた板書】

ウ 高め合いの場面の様子

高め合いの場面では、隣の席の友達と一緒に、ロールプレイを行った。台本を用意し、会話に動きをつけて演じさせた。まず、ロールプレイを行う前に教師と練習をする時間を設け、その後の活動の手本になるようにした。次に、ペアでロールプレイを行った。児童はキャラクターになりきって演じることができていた。最後に代表児童がそれぞれのキャラクターでのロールプレイを行った。代表児童のロールプレイの後には、会話中の言葉の使い方や表情などのよい点や改善した方がよい点を聞き手が発表し、代表児童にもやってみて感じたことを聞いた。「ジャイアン」「のびた」の役割で行ったロールプレイでは、「言い方がこわい」という感想や「自分も乗りたいのに我慢している」などの感想があり、相手も自分も気持ちのよいコミュニケーションではないと感じている児童が多かった。一方、「しずか」の役割でのロールプレイでは、児童から「貸してあげるけど、自分も乗りたいことを言うことができた」という感想や「にこにこしながら言ってくれたので、優しくてよかった」という感想が出た。多くの児童が「しずか」の言い方のよさ感じ取っていた。



【ペアでロールプレイ】

エ 終末の様子と児童の感想

これからの生活の中でどのキャラクターの表現を使っていきたいか、理由も合わせて質問すると「どっちもいやな気持ちにならないからしずかがいい」「友達のことも自分のことも大事にしているからしずかがいい」という意見がほとんどだった。ふり返しシートでは、「今度遊ぶときには、『しずか』の言い方でやってみたい」「『しずか』の言い方だと、みんなうれしい感じがする」など、どの児童も「しずか」の話し方をこれから使っていきたいと回答していた。今回の場面設定が児童にとって身近であったことから一人ひとりが自分のことのように考えることができた。また、ロールプレイを通して、言葉はもちろん表情や態度の面でも感じたことを比較することで、アサーティブな表現のよさに気づくことができ、実際に実践してみようとする意欲に繋がったと考える。



【代表児童のロールプレイ】

③-II ESD 道徳 主題「わたしのあさがお」

道徳の題材を生活科のあさがおの栽培と関連づけることで、より自分の育てているあさがおに愛着をもったり、生命の大切さを感じたりすることができると考えて、本実践を行った。また、これまで児童はあさがおの栽培において、視野を絞って観察したり、植物の気持ちを想像したりするために、「もしもしマシーン」を使ってきた。これらの活動をもとに、本時の高め合いの段階でも、「もしもしマシーン」を活用する。



【もしもしマシーン】

ア 導入

生活科で行ったあさがおの栽培について、世話の仕方、あさがおの様子、自分の気持ちなどを様々な視

点で発表させた。種まきから、今の生長までのあさがおや児童の世話の様子を写真で提示することで、児童がこれまでの生活科の活動を振り返り、あさがおに思いを傾けることができた。

イ 展開の様子

まずは、「わたしのあさがお」を範読した。その時には、「教科書を持ちましょう」「先生が読むから目で追いかけてね」などの声かけを行い、児童一人ひとりが内容を注意して聞くことができるようにした。次に、要点をおさえて板書をしながら、場面の把握をさせた。内容把握後は、しおれて元気のないあさがおを見て、急にどきどきしてきた「わたし」の気持ちを発表させた。児童からは、「かわいそう」「水やりをした方がよかった」「これからは、ちゃんと水やりをするからね」などの意見が出た。

ウ 高め合いの様子

「わたし」の気持ちを考えた後、視点を変えて、枯れてしまったあさがおの気持ちを考えた。その際に、「もしもしマシーン」を活用した。枯れたあさがおに向かって「あさがおさん、どんな気持ちですか」と尋ねさせ、それを耳にあて、自分の考えるあさがおの気持ち（返答）を想像させた。

次に、想像したあさがおの気持ちをワークシートに書かせ、意見を把握するため、机間指導を行った。ワークシートには吹き出しを用い、あさがおの気持ちを想像しやすくした。

そして、ロールプレイの方法で全体発表を行った。学級の児童が「あさがおさん、どんな気持ちですか」と聞き、発表者があさがおになりきってその気持ちを発表した。そこでは意図的指名を行い、「もっと水が欲しいよ」というあさがおの悲しい気持ち、「そんな人には育ててほしくない」という怒り、「これからはちゃんと毎日、水やりをしてね」という未来を見据えた気持ちを発表させ、全体での共有を図った。この高め合いの場面で、生活科から継続して使ってきた「もしもしマシーン」を活用したことにより、児童はあさがおの気持ちを想像しやすくなり、たくさんの意見を引き出すことができた。

エ 終末の様子

本時を振り返った後、これからのあさがおの世話の仕方を確認した。そして、昨年の1年生が育てたあさがおを駅や甚目寺観音などに届けに行き、地域の方に喜んでいただいたことを伝え、今後の意欲につながった。

④ その後の活動

3学期には地域のお年寄りに来ていただき、缶ぼっくり、お手玉、竹とんぼなどの昔遊びを教えていただいたり、育てているチューリップを届けたりして地域との交流を図る。また、採取したあさがおの種を新一年生にプレゼントするために準備を進めていく。

(2) 実践の成果と課題

言語活動の場を多く設けことで、人前で話すことに慣れ、はっきり話せるようになった。話形や話し合いのルールを取り入れたことによって「・・・です」「・・・ます」を使った丁寧な話し方や訳を説明する言い方も身につけることができた。

アサーティブな表現を学習したことで、これまで一人遊びが多かった児童が誘い合って遊ことができるようになってきた。また、断り方も一言で断るのではなく、相手が納得できるように自分の気持ちを入れて断る姿も見られた。

道徳の時間では、生活科との連携を図り、実際に行っている栽培活動と結びつけたことから、主人公を自分自身に置き換えて考えることができた。それによって、実生活でも水やりを頑張って取り組んでいた。今回取り入れた身近な題材や教材は、自分自身に置き換えて考えられる点で有効であったと考える。

言語活動の課題として、ペアでの活動はできるようになってきたが、グループでの活動はまだ続かないので今後話し合いに発展するグループ活動に力を入れていきたい。

アサーション学習の課題は、損得や勝敗に関わる場面になると、感情的になってしまい、なかなか相手の気持ちに立って考えることができない。アサーティブな表現を学習する場をより多く取り入れていきたい。



【あさがおの気持ちを聞く】



【あさがおの気持ちを発表する】